

自己評価表

愛媛県立八幡浜高等学校(全日制)

学校番号(34)

教育方針	1	校訓(五綱領:勉学 礼儀 健康 融和 奉仕)を基調として、地域社会の有為な形成者としての資質を養う。	努力目標	1	主体的に行動する生徒の育成	
	2	社会の変化に柔軟に対応し、自らの進路を切り開く確かな学力を育成する。		2	目指す学校像	○ 文武両道の進学校
	3	個性を尊重し、国際的視野を持った心豊かな人間を育成する。		Hachiko Diploma Policy(Hachiko DP)	①『創造力』 先人の知恵を糧とし、創造する力を身に付けます。 ②『決断力』 主体的に学びに向かい、未知の状況を果敢に切り拓くたくまさを身に付けます。 ③『行動力』 自ら考え、判断し、速やかに行動する力を身に付けます。 ④『対応力』 新たな環境の変化から課題を見つけ、自ら柔軟に対応する力を身に付けます。 ⑤『突破力』 分析と改善を重ね、現状の課題を乗り越える力を身に付けます。 ⑥『継続力』 自らの目標に向かって、一つ一つ努力を積み重ねていく習慣を身に付けます。 ⑦『構想力』 未来の創り手として、考えを体系的に組み立てる力を身に付けます。 ⑧『深化力』 客観的な視点に立ち、「なぜそうなるか」を深く考える習慣を身に付けます。	

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	・新学習指導要領に即した学習指導と評価 ・教員の実践的指導力の向上	・自ら学習に取り組む態度を育成する学習指導の研究と実践 ・生徒の実態に応じた適切な評価方法の研究と実践 ・研修・研究授業の参加5回以上	B B C	・学習指導の研究を進めることはできており、生徒の理解度も良好であるが、保護者からの評価がやや低い傾向が続いている。 ・新学習指導要領における評価方法等についての研究・実践を継続できているが、評価と学力の齟齬を感じている教員もいることがうかがえる。 ・5回以上参加した教員は全体の63%となっている。	・学習指導の研究・実践を継続して行い、保護者からも評価されるように努めていきたい。 ・適切な評価のために、規準等の検証・改善を継続していきたい。 ・STEAM教室の効果的な利用方法や教科横断型授業の研究などより実践的な研修の企画・運営に努める。
生徒指導	・生徒の規範意識の向上と育成	・登下校時の交通事故0件 ・学校行事・奉仕活動やボランティア活動に1回以上参加する生徒100%	C B	・12月末現在で3件の自転車事故の報告があった。昨年と比べると3件の減少となった。内2件が対車との接触事故であった。 ・生徒のアンケートで「奉仕活動やボランティア活動に参加しましたか」に対して42%の生徒が0回と回答した。昨年同期と比較し、16%減少した。	・3件の事故報告のうち、1件は被害生徒が手術入院を必要とする大きな事故であった。横断歩道で車と生徒の自転車が接触した。交差点はもちろん横断歩道においても進入の際の左右確認、一時停止か徐行運転を必ずするよう継続して呼び掛け、交通事故の未然防止に努めたい。 ・今後も可能な範囲で生徒の主体的なボランティア活動への参加が実現できるよう広報等の充実を図りたい。

※評価は5段階(A:十分な評価があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導及び教職員の協働体制の強化 ・望ましい勤労観・職業観と高い学問研究への意欲の養成 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導課と教職員相互の協働体制を強化し、生徒の進路希望達成率100%を目指す。 ・キャリア教育の充実を目指した探究活動及び地域連携活動の深化を目指す。 	C B	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学の年内入試に25人がチャレンジし9人合格(合格率36%)。競争率の上昇に伴い、例年と比べ低い合格率となった。共通テスト対策については一丸となって取り組んでいる。 ・企業説明会(21社)やインターンシップ(16社)に、外部講習やフィールドワーク、ボランティアなどの地域との連携も増え、生徒の満足度も8割超えているが、より自主的に取り組む生徒の育成に努めたい。また、資格取得や進路実現に対する意欲高揚にも努め、就職の早期内定も達成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の能力や適性に応じた志望校の検討は、HR担任一人の指導では困難である。1・2年次の早い段階から、多くの教員が積極的に生徒の進路に関わっていく体制をつくる必要がある。 ・地域と連携をさらに深めて、多様な体験や交流活動の機会を増やし、生徒の夢や目標の明確化に努めていきたい。
健康・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設備の安全点検と改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1教棟、第2教棟のトイレ改修を、それぞれ1ヵ所以上目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・第2教棟2階男子トイレの個室を自動開閉式の洗浄便座に改修した。今後の予算状況により、追加の改修を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3校の統合が控えているため、第1、第2教棟のトイレ改修を優先的に行いたいと考える。
図書	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出総数1000冊以上 ・図書室を利用したことのない生徒・教員0人 	B C	<ul style="list-style-type: none"> ・2月20日現在で貸出総数が1014冊となり、前年度(749冊)から増加した。目標を達成することができた。 ・総貸出数は増加したものの、約半数の生徒・教員が図書室を利用していない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」や探究活動に図書利用を促進する等、授業での利用を増やす方策を実施する。 ・読書会・ビブリオバトルなどの図書委員会主催の会を1学期に開催する。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の充実 ・学校教育活動の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの適切な更新(1日当た600件以上のアクセス数) A: 800件以上、B: 700件、C: 600件 D: 500件、E: 300件 ・生徒の活動の様子、PTA行事及び各研修会案内等、その周知方法の検討及び内容の充実 	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新は昨年より多く更新できた。しかし、1日のアクセス数が昨年度は平均550件だったが、今年度は710件と約160件増加している。今後、学校の魅力を発信するために他のSNSの活用も検討していきたい。 ・PTA総会や各学校行事等へ多くの保護者等の参加があり、学校の様子を直接見ていただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・八高日記で生徒の活動を掲載した時にアクセス数が増加している。特に学校行事の翌日は1000件を超える状況である。課題としては中学生やその保護者をターゲットにInstagramなどを活用して学校の魅力を発信していくことも考えていきたい。 ・「PTA月報」及び「PTA会報」の内容の充実を図り、様々な生徒の活動やPTA行事等の活動を発信していきたい。
人権・同和教育	<ul style="list-style-type: none"> ・「部落差別解消法」の具現化 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・同和教育ホームルーム活動の充実 ・人権委員会活動、人権・同和教育研修会の充実 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・『人間の輪』に基づき、体系的な計画を立てることができた。公開授業を1学期に行ったことで、全学年で実施することができた。参観者も昨年度とほぼ同数の人数であった。 ・文化祭での委託販売など昨年度と同様に地域との連携をより強くすることができた。 ・職員研修や人権委員夏季研修会も実践的な研修を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に3年間学習できるよう、人権委員会を中心としたホームルーム活動の活性化を図り、様々な情報や教材を教職員に提供していきたい。 ・地域と協力して、生徒・教職員が様々な人権問題に取り組めるように連携を深めていきたい。 ・職員研修については、生徒へ還元できるような内容を検討していきたい。
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な勤務時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の適正化を図り、よりよいワークライフバランスを確保する。業務の効率化を進め、時間の有効活用を図る。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークの推奨、年次有給休暇の取得促進、会議の精選と時間短縮などにより勤務時間の適正化を図った。 ・出勤状況記録表を基にした声掛けや面接を行った。 ・意識改革はできつつあるが、効果はまだ十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間を把握するとともに、「早く帰ろうDAY」の徹底、ICT機器の積極的活用、会議の精選と時間短縮による業務改善を進める。併せて、効果的な校務分掌を検討する。

※評価は5段階(A:十分な評価があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。